

# 学校法人東京女子大学 2011 年度事業計画

## 2011 年度事業計画の方針について

2011 年度は現代教養学部開設 3 年目である。この間、新学部、既設の文理学部及び現代文学部部の教育・研究の充実を図ってきた。

2011 年度事業計画は、教育・研究の質をさらに高めるため内部質保証体制の確立を目指し、次の 4 つの項目を柱に据えて教育・研究の充実を進めていく。

- 1 . 2012 年度人間科学研究科博士前期課程の開設を目指して、大学院修士課程再編を行う
- 2 . 2009 年度に受審した(財)大学基準協会による認証評価結果の総評及び助言を踏まえた改善事項への実施取り組み、及び外部評価の実施
- 3 . 教育・研究環境を整えるため引き続きキャンパス整備を行っていく
- 4 . 創立 100 周年記念事業計画の策定

## . 2011 年度事業計画の概要

教育・研究の質の向上と経営基盤の強化を図るために重点的に取り組む事項

大学院人間科学研究科博士前期課程開設に向けた修士課程の再編

自己点検・評価体制の見直し及び新たな外部評価の導入等による「内部質保証」システムの確立と情報公開の促進

F D 活動の推進

学部第 2 段階の改革に向けた検討

全学共通カリキュラムの改革に向けた取り組み

キャンパス整備計画の推進

経営基盤の強化

創立 100 周年事業に向けた中・長期計画の策定

## . 教育・研究の充実と事業

### 1 . 大学院人間科学研究科博士前期課程開設に向けた修士課程の再編

2009 年度の学部再編統合に対応し、かつ人間科学研究科博士後期課程への円滑な接合を図るため、2012 年度人間科学研究科博士前期課程開設を目指して、大学院修士課程再編を行う。再編にあたっては、人文科学分野の教育の充実と社会科学分野の強化を図り、「教養ある専門人」の育成をさらに推進するとともに、日本や世界が直面する多様で複雑な課題の解決に対応できる人材育成を目指す。

### 2 . 新たな外部評価の導入等による「内部質保証」システムの確立と情報公開の促進

自己点検・認証評価結果を踏まえ、改善に向けて実施していくために、自己点検・評価体制の見直し及び新たな外部評価の導入等による「内部質保証」システムの確立と情報公開の促進を実行する。

### 3. FD活動の推進

(財)大学基準協会の認証評価における指摘事項を基本に、引き続きFDの推進に力を入れる。

大学全体の教育の質向上に資する研修会をFD委員会の主導により定期的実施する。また、学生による授業評価結果等を全学的に共有し、より効果的に個々の授業改善に結びつけるための組織的な取り組みを、FD委員会を軸に強化する。

大学院においては、「授業及び論文指導についての検討会」結果を大学院全体で共有し、大学院委員会及びFD委員会が連携し組織的な教育改善に取り組む。

### 4. 学部第2段階の改革に向けた検討

現代教養学部の自己点検・評価結果、学生の満足度調査、社会の要請等を分析し、21世紀にふさわしい、より魅力ある学科づくりを目指して、2010年度から開始した教員配置の変更をも含む学部第2段階の改革に向けた検討を継続する。

### 5. 全学共通カリキュラムの改革に向けた取り組み

2010年度より全学共通カリキュラムが、本学の教育理念であるキリスト教主義に基づくリベラル・アーツ教育を具現化しているか検証を開始した。2011年度においては、その結果を受け、学科・専攻の教育との連携も視野に入れながら、特色あるカリキュラム、教育の質の向上、学生の満足度を高めることを目指し、2013年度において改革が開始できるように具体的プランを作成する。

### 6. 奨学金制度の充実

経済状況悪化の中で、学生の困窮度の割合も従来より高まっており、学内奨学金制度の充実と、一層の学外奨学金の活用を図る。

2009年度より授与を開始した、「新渡戸稲造奨学金」(経済的状況を勘案しない育英型奨学金制度)制度の充実により、現代教養学部の入試成績上位者を対象とした優秀な学生の入学を促進する。

## 教育・研究環境の整備と充実

### 1. キャンパス整備計画の推進

学生・教職員にとって、安心・安全・清潔な教育・研究環境の充実を目指して進めてきたキャンパス整備計画第1期工事(2006年度~2012年度)は6年目に入る。

本学は文化庁登録有形文化財として7つの建物を保有しその維持に努めているが、2011年度は本館、キリスト教センター(14号館)、外国人教師館(16号館)の耐震・補強と改修工事を行う。

### 2. CALL教室の環境整備

2011年度期首に合わせ4つのCALL教室の機器更新を行った。今回の更新では、4教室に設置するすべての端末を統一した。また、端末をシンクライアントにすることで、

2011 年度からは、授業等で学生がパソコンを利用するに当たり、今まで以上に安全に利用することが可能となる。

## . 経営基盤の強化

私立大学として充実した教育研究環境を支えるための基盤は、健全な財政である。2011 年度は現代教養学部がスタートして 3 年目に入る。また 2012 年度開設予定の大学院修士課程再編計画も進んでおり、このような状況の下で新しい体制に相応しい教育・研究の質的向上を図るための充実した環境の整備は必須要件である。そのために毎年、財政報告書を作成し、将来を見据えた財政対策の検討材料としている。

今後もこれらを念頭に置きながら健全な財政基盤の構築を目指していく。

### < 2011 年度予算編成方針 >

(ア) 消費収支を均衡させ、健全な財政の確保に努める

(イ) 収支の基盤となる入学者については、入学者目標を既定方針通り確保する

(ウ) 教育研究経費比率は 28～30%を目標とする

(エ) 管理経費は、継続して経費削減を進める

(オ) 人件費比率は 56～58%を目標とする

(カ) キャンパス整備計画に基づき、建物・設備の耐震補強及び老朽化対策等を引き続き実施する

## . その他

### 1. 維持協力会の強化

経済状況の好転がみられない現状に鑑み 2010 年度に続き、学生の奨学資金充実のために、同窓会を中心とした維持協力会の強化を図り、より一層教育の充実、発展に寄与していく。

### 2. 創立 100 周年に向けた中・長期計画の策定

7 年後（2018 年）に迎える創立 100 周年に向けて、中・長期計画を策定する。その中で記念事業、記念募金などの具体的計画を検討する。

### 3. 広報の充実・強化

本学の教育理念を学内外に徹底的に周知し、教育・研究、学生の活動をアピールするため、動画配信を含め情報発信を積極的に行う。これにより本学の認知度を高める。